

金 沢 大 学 資 料 館 だ よ り

No.20 Nov.20 2002



郷土資料「歴代九谷焼作風標本（青木木米）」

--目次--

私が集めた岩石・地形図	…2
松嶋家文書	…4
郷土資料「歴代九谷焼作風標本」	…6
Kirchhoff・Bunzenの分光器 四高物理機器から	…7
資料館彙報	…7

私が集めた岩石・地形図

金沢大学名誉教授・金城大学教授 守屋 以智雄

2002年3月で停年退官する際に、幸いにも長年集めた岩石・地形図などを、資料館で引き取り保管していただくことになった。私にとって大変うれしいことで、ご尽力いただいた関係諸氏、とくに和田敬四郎図書館長には深く感謝している。

岩石試料について このたび保管していただくことになった岩石試料約4000個は、日本ではよくある安山岩質の火山噴出物で、珍しくも高価なものでもない。私が博士課程に進学してから8年間、約350日間踏査した群馬県の前橋市のすぐ北にある赤城山の岩石である。この調査で赤城山の火山としての歴史が詳細に明らかになり、さらに赤城山は、その後、私が続けた日本列島の成層火山の地形や噴火様式・噴出物など火山一般の性質の変化、すなわち日本の火山の歴史研究のモデルとなった。35万年ほど前から始まった赤城山の噴火で、初期にどのような溶岩流がどの程度の量流出し、その後、どのような組成に変化したか、中期になると火砕流が盛んに噴出し、噴出物の性質・分布・量・組成などが変化するのにもなって火山の形態も大きく変化した、末期に入って、5万年前に大噴火とともに山頂にカルデラが生じ、3万年前には地蔵岳などの溶岩ドームが形成された、などの史実が明らかになった。このような様々な事件を起こして現在にいたる間に噴出した岩石は、その当時に火山とその地下でなにが起こったのか、その情報を数多く内蔵している。これらの岩石を分析を通じて様々な事実が明らかにされ、種々の考えが生まれているが、まだまだ多くの謎に包まれている。

新しい機器が考案され、新たな分析法が開発されて、一度分析された岩石試料が別の機器、別の方法で分析され新しい解釈が生まれ、謎がひとつ解けるということは、科学の世界で普通にあることである。そこに、すでに何回か分析された岩石試料が無意味で捨てられるものではなく、将来の新たな分析を待つ重要な意義をもつ試料として存在する。私の試料は上記のほかに、噴出順序が詳細にわかっている、日本でもさほど多く

ない火山の試料であるところに意味がある。火山の一生の中で岩石がどのように変化し、過去の地下の状況がどのように変化したのかなど、未計測の元素を将来開発されるであろう機器で分析、新たな事実の発見、理論の発展に寄与することを願って保管・整理をお願いした。金沢大学の関係教官・学生諸氏はもちろん、国内外の研究者に利用していただければ大変うれしい。資料館の在田・田嶋さん、博物館学実習で岩石試料整理をしていただいた学生諸氏に深く感謝している。



岩石試料

地形図について 1980年に金沢大学に赴任したが、その前年日本の火山の歴史の総まとめを行った。20年かかったこの仕事には航空機から撮影した空中写真が重要な働きをした。これがなければ100を超える日本の火山全体を把握・比較する大仕事は不可能であった。金沢大学にきてしばらくしてから、念願の世界の火山の歴史を総まとめしようという無謀な仕事にとりかかった。日本の火山の数が当時200といわれていたが、それに20年かかって、世界の火山はメキシコだけで4000を超すので、日本と同様の方法では1000年以上かかってしまう。そこで衛星写真を使うことを試みた。しかしこれは解像度が低すぎ、個々の火山の歴史をたどることは到底不可能であった。そこで従来の空中写真と地形図を使うことにしたが、空中写真は高価すぎ、より廉価の地形図を中心に世界の火山の歴史に挑戦することになった。地形図を利用すると等高線の

屈曲の様子から溶岩流であるとか、火砕丘であるとか実際に調査しなくても推定できる。地形図の効用の詳細は次の機会に譲ろう。

地形図の収集は意外に手間取った。理由のひとつは1980年代から世界的に政治情勢が悪くなり、地形図を発売禁止にする国が増えたこと、もうひとつは申し込みから現品を入手するまでの手続きが大変面倒で、長い時間を要したことである。

地形図はすべて国の刊行物である。国はどれも「威張って」いて、代金を支払わなければ現品を渡さないし、逆に現品を渡さないと代金を支払わない。したがって金沢大学の一員であった私が、メキシコの地形図を校費で買う際、直接には買えない。メキシコ地理院は「先に支払え」、日本の文部省は「地形図を見せなければ支払わない」という。結局メキシコと日本の2つの企業を間に立てて、手数料を払って両国家の取り持ちをしてもらうことになる。経理・用度係員が変わるごとにこの事情を説明することや、理由書をかくことなどで、余分な時間をずいぶん使ったし、代々の経理・用度係員に迷惑をおかけした。

日本では精度のよい2.5万分の1の地形図が全国をカバーし、ドライブマップ・カーナビなどのベースとして幅広く利用され、全国の主な書店で簡単に購入できる。海外の多くの国では5万分の1の縮尺の地形図がもっとも精度が高く、国土の基本図となっている。それに道路・橋梁・鉄道・集落・田畑などの情報が大量に盛り込まれている。これはつまり国家の重大な機密事項が地形図の中にふんだんに盛られていることを意味する。いざ国内で戦闘が始まった場合には、軍事作戦上の貴重な資料となる。そのためかなりの国で発売禁止となっている。1987年にアメリカ合衆国で地形図を買い、郵便局で日本に送ったが届かないことがあった。あとで知った話だが、当時タカ派のレーガン政権下で、一時地形図の海外流出が禁止されていて、それに引っかかったということであつたらしい。緊張関係にあるトルコに近いギリシャのコス島で調査中、挙動不審、スパイ容疑でギリシャ軍に捕まったことがあったが、その時ザックに論文などに公表しないようにとの約束でもらった地形図がはいっていた。見つか

つたらと冷や汗ものであったが、電話でアテネ大学の教授に釈明してもらって無事だった。20年ほど前に台湾で地形図を所持していたため監獄に入れられた日本の研究者がいたという話があった。

上記のような紆余曲折がありながらも、アフリカ・ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリア大陸に、ハワイ・カナリア・アゾレスなどの海洋島の火山の地形図をほぼ8割方収集した。しっかり数えていないが、その数は3000枚を超そうか。火山の地形図収集に関しては世界一と自負している。スミソニアン自然史博物館の資料室に「宝物」を探しにいったことがあるが、正直いって自分でいうのもおかしいが、私のコレクションにくらべかなり見劣りし、「獲物」なしで退散した。しかし私の収集したものも、まだ完全な火山の資料というには程遠い。これからも収集を継続していかなければならない。

私の収集した地形図は火山に関係するものに限られ、火山以外の地域を含めた地形図は全体としてその数十倍に達する膨大な枚数に及ぶ。私は主要大学の図書館・資料館にかなりの枚数の地形図が、係員つきの保管・閲覧室とともに置かれるべきと考えている。私が滞在したアメリカ合衆国西部のアリゾナ州立大学の図書館の一角には、地形図を主とする広い地図室が置かれ、3名の係員が閲覧された地形図をもとに戻す作業などを、朝8時から夜8時まで常時行っていた。日本では駒澤大学図書館と東京大学総合研究博物館に地図室があり、かなりの地形図が収集されているが、整理・閲覧などについては十分な人員が確保されていないし、一般公開も行われていない。アフガニスタン・バリ島などのニュースが流れても、その地形図が容易に見られる環境が一般社会にまだない。全国的な地図資料研究所の設立が地理学研究者の間で叫ばれて久しいが、まだ日の目をみえていない。全国の大学の図書館・資料館の一角にかなりの面積をもつ地図室が設置されていくことが、より現実的であるし、設置の効果も大きいのではないかとと思われる。

松嶋家文書

松嶋家文書は河北郡津幡町池ヶ原松嶋家に伝わった文書・記録・典籍類、計60点からなる。津幡町池ヶ原は、南北に長い石川県のほぼ中央部、加賀・能登・越中の三国に接する三国山麓の丘陵地に位置する。

資料の中心をなす「一代記」は、地方知識人といえる松嶋家先代松嶋喜太郎が、天保7年から明治4年までに収集した諸情報を記録したものである。弘化2年(1845)以降は、元治元年(1864)、慶応3年(1867)、明治元年(1868)、同2年を除いてそろっている。1巻から5巻、7巻から18巻、26巻、27巻まで現存するが、巻数が不明のものもある(元治2年、慶応2年)。内容は、天候、災害、作柄に関する記述が多い。また、たび重なる外国船来航、中央での政治的事件など主な社会情勢についてはおおよその情報が記載されており、加賀藩の一地方への情報伝達のあり方をうかがうことができる。加賀藩レベルでは嘉永5年(1852)の銭屋五兵衛の投獄に至る河北潟死魚浮上事件、安政5年(1858)の卯辰山騒動等が記されている。

本資料は平成9年(1997)に松嶋義久、松嶋寿彦両氏から当館へ寄贈された。

松嶋家文書目録

分類番号/表題/年代/作成者/形態/寸法

A 土地

- A-1** 「加賀国河北郡池ヶ原一筆限反別地価等書上帳」
明治九年 松嶋喜平 縦帳 24×18

B 年代記

- B-1** 「一代記一、二、三之巻」天保七、八、十年、
弘化二、三年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18

- B-2** 「一代記四、五之巻」弘化四年、嘉永元、
二、三年 松嶋喜太郎 縦帳 18×12
- B-3** 「一代記七之巻」嘉永四年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18
- B-4** 「一代記八、九巻」嘉永五、六年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18
- B-5** 「一代記拾、拾一之巻」嘉永六、七年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18
- B-6** 「一代記拾二、拾三之巻」嘉永七年、安政二、
三、四年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18
- B-7** 「一代記拾四、拾五、拾六之巻」安政五、六、
七年、万延二年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18
- B-8** 「一代記拾七、拾八之巻」文久二、三年 松嶋喜太郎 縦帳 24×18
- B-9** 「(元治二年正月水戸浪人討落一件等)」
(「一代記」ノ一部力) 元治二年、慶応二年
綴はずれ 24×18
- B-10** 「一代記二拾六、二拾七之巻」明治三、四年 縦帳 24×18
- B-11** 「(嘉永三年英国船日本到来一件等)」
(年欠・「一代記」ノ一部力) 松嶋喜太郎
綴はずれ 24×18

C 往来物・手習

- C-1** 「庭訓往来」万治二年 木版 28×19
- C-2** 「今川了俊制詞等」木版 26×19
- C-3** 「寺子読書千字文」寛政十一年 木版 23×16
- C-4** 「頭千字文 上」木版(破損本) 23×16
- C-5** 「百姓往来」文政十三年 木版 18×13
- C-6** 「商家日用往来」(写本) 縦帳 24×18
- C-7** 「(節用集)」(破損激しい) 木版 25×20
- C-8** 「商売往来」(手習) 縦帳 36×26
- C-9** 「消息往来」(手習) 縦帳 36×26
- C-10** 「(河北郡邑名等)」(手習) 縦帳 24×18
- C-11** 「(国盡)」(手習) 縦帳 35×25
- C-12** 「(名尽)」(手習) 縦帳 38×27
- C-13** 「今川了俊制詞等」(手習) 縦帳 36×25
- C-14** 「(五節句由来他)」(手習) 縦帳 36×26
- C-15** 「(加越能三州地理方往来)」(手習) 縦帳 36×25
- C-16** 「(元和三年忠孝礼等)」(手習) 松嶋喜太郎 縦帳 36×25
- C-17** 「(商売用手習)」(手習) 縦帳 36×25
- C-18** 「(和国歴史方手習)」(手習) 折本 38×9

D 真宗

- D-1 「七ヶ条」(写本) 縦帳 24×18
- D-2 「七ヶ条一通,家内示談」(写本) 縦帳 24×18
- D-3 「黒谷上人法語」元禄二年 木版 27×19
- D-4 「(本願寺等触)」(写本) 明治十六年 縦帳 24×18
- D-5 「歎異抄 下」元禄十四年 木版 26×18
- D-6 「歎異抄」(写本) 縦帳 24×18
- D-7 「御式嘆徳文」(写本) 慶応四年 縦帳 24×18
- D-8 「末燈鈔 二」(写本) 縦帳 25×18
- D-9 「末燈鈔 三」(写本) 縦帳 24×18
- D-10 「往生要集」(写本) 縦帳 25×17
- D-11 「親鸞聖人御法語末」(写本) 縦帳 24×18
- D-12 「親鸞聖人送状之事他」(写本) 縦帳 24×18
- D-13 「仏(説)善悪因果経」(写本) 縦帳 24×18
- D-14 「(上人様説諭等)」(写本) 文政七年 縦帳 24×17

E 和歌・謡曲

- E-1 「新三十六歌仙」(写本) 縦帳 18×12
- E-2 「(和歌文集)」 縦帳 24×18
- E-3 「(謡本)」(春日龍神・船橋・江口・花筐・源氏供養)(写本) 縦帳 24×18
- E-4 「(謡本)安宅」宝暦五年 木版 19×13
- E-5 「(謡本)夜討曽我」宝暦五年 木版 19×13

F 合戦記

- F-1 「石山信長記」(写本) 縦帳 24×18
- F-2 「石山信長記」(写本) 天保十四年 縦帳 24×18
- F-3 「能州末森戦記」(写本) 縦帳 24×18

G その他

- G-1 「内外新聞」慶応四年戊辰五月八日
第四知新館 木版 22×15
- G-2 「西国三十三所巡礼」 木版 20×15
- G-3 『天照皇大神宮御神楽御祈禱奉奏加名簿』
印刷物 26×18
- G-4 (金銭計算書)(明治) 罫紙 24×34
- G-5 (貸金受取証) 明治三十九年 一紙 15×35
- G-6 (薬包紙) 17×13
- G-7 紙片 ノートの断片 19×15
- G-8 紙片 36×26



一代記

郷土資料「歴代九谷焼作風標本」

径16cm20点の同一規格の小皿である。収められている箱の「郷土資料、産業部、標本」とのラベルの記載から、師範学校の「郷土教育」に関連する資料だとわかる。

郷土教育の思潮は昭和初期に普及した。初等教育地理科の基礎概念を形成する一方、郷土意識・郷土愛を祖国愛の涵養につなげる方向がとられた。文部省はこれを奨励し、昭和5年（1930）各師範学校に郷土研究施設費の補助を開始した。石川県師範学校でも昭和7年7月に郷土館が設置された。（「石川県師範学校沿革大要」『音づれ』石川県師範学校昭三会 1986）

「郷土館」では、郷土に関する資料を収集・展示した。謄写版刷りの小冊子『郷土研究資料目録』（石川県師範学校1932 附属図書館蔵）には1400点に及ぶ「郷土研究資料」記載されている。これらの資料はほとんどが散逸している。郷土誌、教育史に関わるまとまった資料群をなしていただろうと惜しまれる。

（※注）再興九谷

石川県（加賀・能登）の近世の窯業は江戸中期に古九谷窯が絶えてから、加賀藩茶陶御用窯の大樋窯を除いて、約100年間断絶して本格的な製陶事業は行われていなかった。加賀藩内における陶磁器の需要は年々増大し、唐津・有田・京都などから大量の陶磁器を買い入れていた。このため出費も膨大な額に上り、加賀藩はこの経済状況を打開するために殖産興業の目的で製陶事業を始めた。このような目的で加賀藩内に興った江戸後期の諸窯は、京都から青木木米を招いて文化4年（1807）開窯した金沢春日山窯がその発端となり、若杉窯・小野窯・吉田屋窯・宮本窯・蓮代寺窯・松山窯等や、能登の正院窯・三杯窯等の諸窯が加賀・能登の地に次々興った。

これらの諸窯は江戸前期の古九谷窯の再興を目的の一つとし、京都などから陶工を招請したり修行を積んで帰ったりして新しい作風を取り入れて、諸窯それぞれ指導者の好みによる個性ある作品群を作り出した。これらの諸窯製品は江戸前期の「古九谷」に対し、「再興九谷」

「郷土館」に関して次のような記述もある。昭和9年(1934)11月に実施された石川県師範学校創立60周年記念行事の一環として、展覧会が開催され、教室を開放し教育資料や生徒作品が展示された。同時に郷土館も一般公開された。「第二会場は郷土館の三つの室を全部開いたに過ぎない程度だ。品物の配置も普通の時と同じい様だった。」「子供達には喜ばれない室で、相当の知識階級の人には金沢城の古地図や、県下の産物等が興味をもって見られていた」（『会報 母校創立六十周年記念号』（石川県師範学校同窓会，1935）。金沢市弥生の石川県師範学校の校舎内に3室を使って展示室があったこと、やや退屈な展示であったことが伺える。

当該資料は「十五、工業二関スル資料」中の「歴代九谷焼作風標本（二十種）」にあたる。県下の主要産業のである九谷を紹介し、江戸時代後期に始まる「再興九谷」（※注）の陶工・陶画工、技法の各様式を精巧に再現している。

と呼ばれている。

再興九谷の作品群は古九谷作品群に見られる色絵磁器の塗埋手技法の伝統を中心にして赤絵細描の作品群とともに日本の色絵陶磁器の中で際だった独特の世界を形成し、今日の九谷焼に継承されている。（『再興九谷 松山窯展』（1997、金沢大学文学部考古学研究室、古代学協会北陸支部）より）

（表紙写真）青木木米

明和4年(1767)～天保4年(1833)

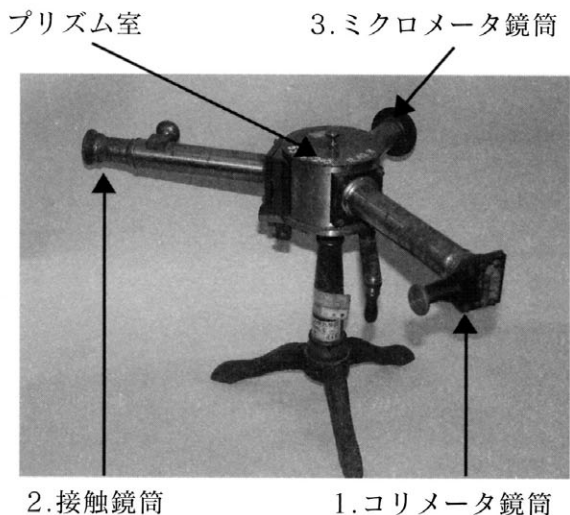
文化3年(1806)藩の殖産興業策として京都から招かれ、翌4年現金沢市山ノ上町小坂神社付近に春日山窯を開いた。しかし同5年の大火で経済的な打撃を受けた藩の保護が受けられず1年で帰京、栗田口で活動した。この春日山窯は松田平四郎に引き継がれた。

Kirchhoff・Bunzenの分光器 (Spectroscope) 四高物理機器から (光014)

金沢大学名誉教授 板垣 英治

3本の鏡筒とその中心に1個のプリズムより構成されている。鏡筒1はコリメータ(集光)鏡筒で、ガスバーナーの焰の光をスリットを通して内部に取り入れ、2枚のレンズを経て、光はプリズムに入り、分光されて鏡筒2に入る。この鏡筒の接眼レンズで画像が作られ、入射光のスペクトルを観察することができる。分光する試料溶液を白金線に付着してガスバーナーの焰の中に入れると、試料に含まれる金属元素に特有の色の焰が出る。この焰のスペクトルを観察して同定することができる。

鏡筒3には黒色ガラスに透明な目盛りを刻んだマイクロメータがある。ガスバーナーからの光はこのマイクロメータを通り、レンズで平行光線となってプリズムに当たる。この表面で光は反射されて鏡筒2に入り、接眼レンズで結ばれたマイクロメータの画像が先のスペクトルの上に作られ、波長を比べるために使われる。



Kirchhoff・Bunzenの分光器については『金沢大学資料館紀要』No.3に板垣名誉教授による「第四高等学校物理科の分光器と明治4年にスロイスが『舎密学』『究理学』で講義した分光器」として、より詳細な解説を掲載する予定です。

資料館彙報 (平成14年2月～10月)

- 2月15日 『資料館だより』No.19発行
- 2月22日 大韓民国釜慶大学校一行来館
- 3月 4日 「大樋焼 角のある花器」を石川県立美術館「春季企画展 日本芸術院会員大樋長左衛門の世界」へ貸出
- 3月 4日 資料館研究員酒井誠一(50年史編さん室)、～5日 名古屋大学博物館・名古屋大学大学史資料室へ施設等見学のため出張
- 3月 7日 北海道大学総合博物館専門員横山氏来館
- 3月12日 工学部から実験機器搬入
～13日
- 3月13日 平成13年度第5回資料館委員会
- 3月14日 資料館研究員能川泰治(文学部助教授)、～16日 大阪大学総合学術博物館設置委員会・京都大学総合博物館・京都大学大学文書館へ施設等見学のため出張
- 3月24日 資料館長、鹿児島大学総合研究博物館・九州大学総合研究博物館へ施設等見学のため出張
～26日
- 3月25日 埋蔵文化財展「金沢大学内の遺跡調査」～今年度末
- 4月 1日 資料館委員の交代 法学部振津隆行委員から金子靖孝委員
- 4月 8日 金沢大学資料館特別展「金沢大学資料館へようこそ」～19日
- 4月 9日 「金沢城遺物」を石川県立歴史博物館「春季特別展—利家とまつの生きた時代—一戦い・くらし・女たち」へ貸出
- 4月19日 平成14年度文学部博物館実習受入
～7月 3日
- 5月17日 平成14年度第1回資料館委員会
- 5月24日 資料館特別展「四高物理機器展」～6月14日
- 5月25日 日本科学史学会一行来館のため特別開館
- 6月 6日 資料館公開講演会 工学部田中一郎教授「四高時代の物理教育と物理機器」

- | | | | |
|--------|---|---------|--|
| ■6月14日 | 文学部集中講義「考古学特殊講義」のため
館蔵資料を提供 | | 部教授御影雅幸，科学技術史部門：本
学名誉教授竹村松男，元石川県立高浜
高等学校長今江新成) |
| ■6月20日 | 資料館長「国立大学博物館等協議会」
～21日 出席のため東京藝術大学へ出張 | ■ 7月30日 | 教育学部から石川師範学校関係資料を搬入 |
| ■6月21日 | 石川県立羽咋高等学校PTA一行来館 | ■ 8月 7日 | オープンキャンパス 展示室を公開 |
| ■7月 1日 | 富山県立砺波高等学校PTA一行来館 | ■ 9月25日 | 長野県立屋代高等学校PTA一行来館 |
| ■7月 2日 | 富山県立福光高等学校PTA一行来館
石川県大学図書館協議会講演会に，資料
館長「奈良・平安時代葬制の一斑一角間
遺跡をてがかりとして」を講演 | ■ 9月27日 | 中川重山形大学博物館長来館 |
| ■7月 3日 | 富山県立高岡商業高等学校PTA一行来館 | ■10月 1日 | 資料館委員の交代 がん研究所田中基
裕委員から久野耕嗣委員 |
| ■7月 8日 | 富山県立高岡西高等学校PTA一行来館 | ■10月 4日 | 平成14年度第3回資料館委員会 |
| ■7月23日 | 第3回資料館研究員会議開催（大学史部門） | ■10月 8日 | 富山県立高岡高等学校PTA一行来館 |
| ■7月25日 | 「北陸三県高等学校長等と金沢大学懇談
会」出席者来館 | ■10月 9日 | 滋賀県立虎姫高等学校PTA一行来館 |
| ■7月26日 | 平成14年度第2回資料館委員会 資料館
研究員委嘱（自然史部門：理学部教授
植田邦彦，理学部助教授神谷隆宏，薬学 | ■10月10日 | 遠山敦子文部科学大臣一行来館 |
| | | ■10月15日 | 新潟県立高田北城高等学校PTA一行来館 |
| | | ■10月17日 | 富山県立福野高等学校PTA一行来館 |
| | | ■10月21日 | 北陸高等学校PTA一行来館 |
| | | ■10月24日 | バングラディッシュ ダッカ大学
シュハラバ・アリ氏来館 |

金沢大学資料館だより 第20号

館長 笠井 純一（文学部教授）

館員 在田 則子

館員 田嶋 万希子

〒920-1192 金沢市角間町（附属図書館内）
金沢大学資料館

Tel (076) 264-5215 Fax (076) 234-4051

E-mail museum@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

ホームページURL

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~shiryo/index.html>

発行日 平成14年11月20日

編集発行 金沢大学資料館

印刷 株式会社 中川印刷